

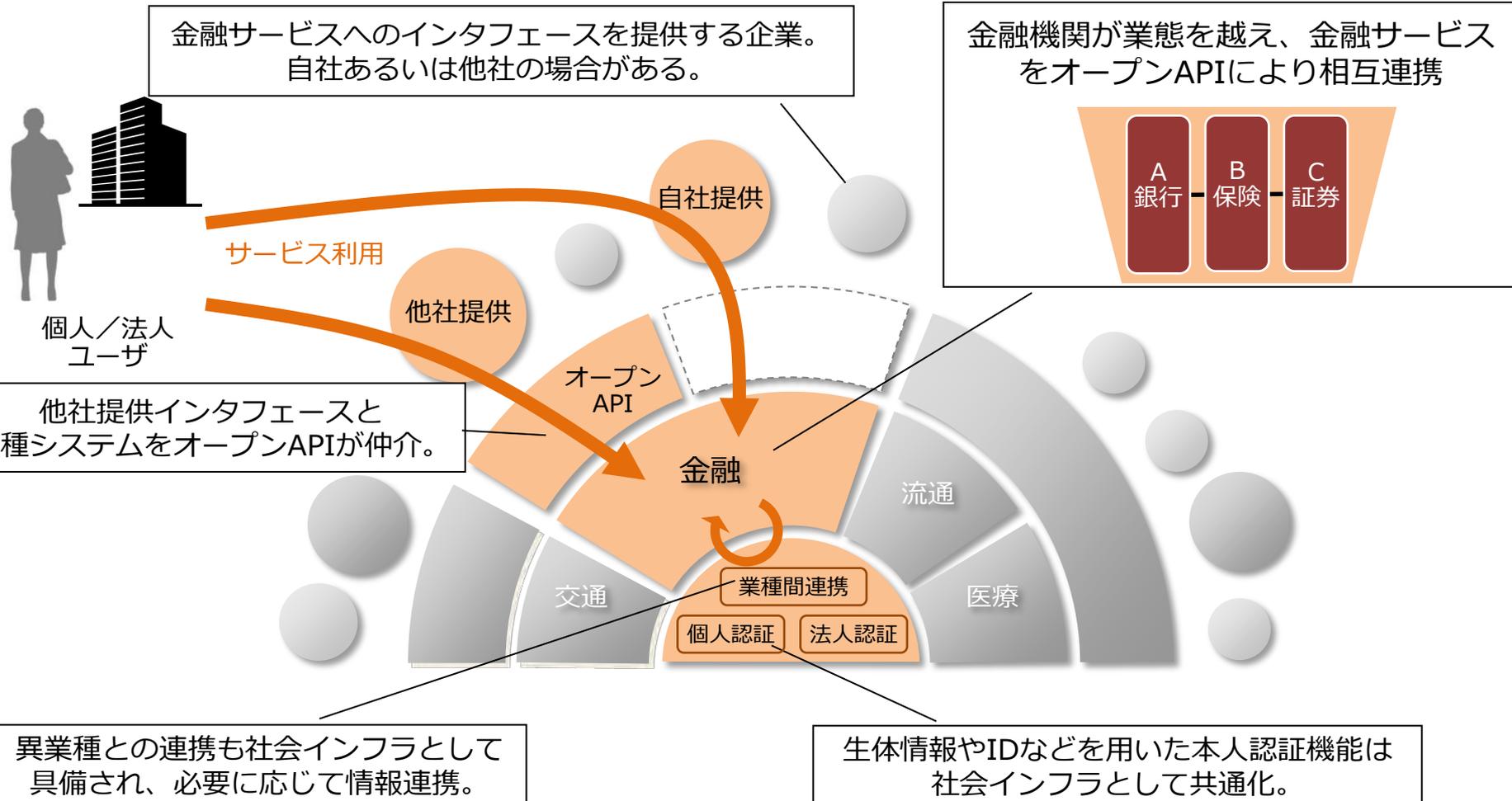
第2回FinTechフォーラム 資料

オープン・イノベーションへの取り組み
～分散元帳技術の標準化と顧客協創の観点から～

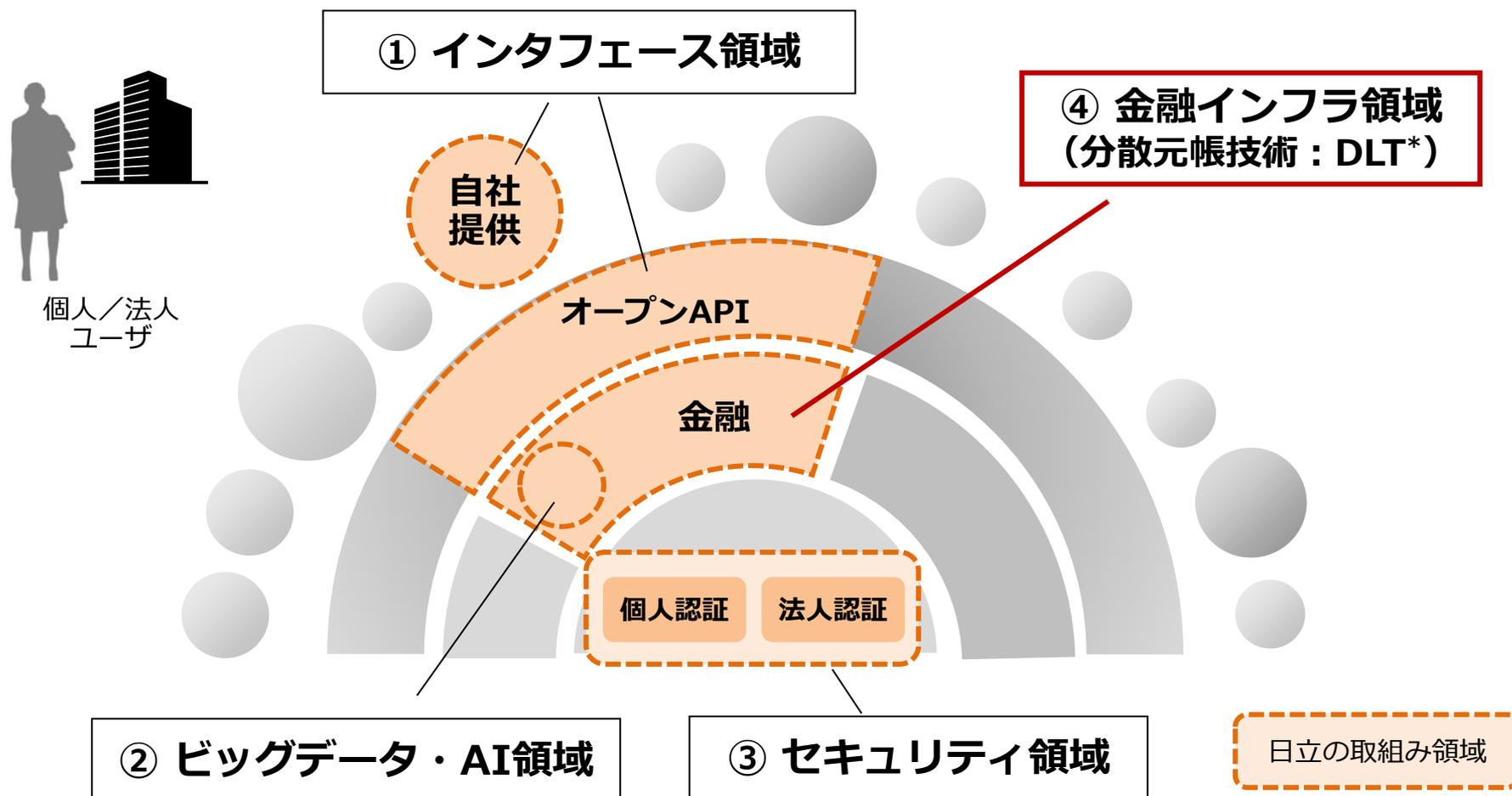
2016年11月8日

株式会社 日立製作所
金融イノベーション推進センタ

- ユーザは自身のライフ・スタイルに合わせて、各種インタフェースを自由に選択可能。
- 金融や公共といった業種単位で共通化が進み、業種共通の機能は社会全体として共通化。



- 未来の金融システムの実現に向け、以下の4領域での新たなソリューション提供に重点的に対応し、エンドユーザ指向の新機能や新サービスを提供してまいります。



当社ではオープン・イノベーションをOSS（オープン・ソース・ソフトウェア）提供に向けたオープン・コミュニティによる基盤開発と、顧客とのコラボレーションを通じた協創の2面からの対応を進めています。更に、将来に向けては、DLT適用拡大を通じた異業種連携による更なる利便性向上を目指しています。

オープン・ コミュニティ 開発



HYPERLEDGER

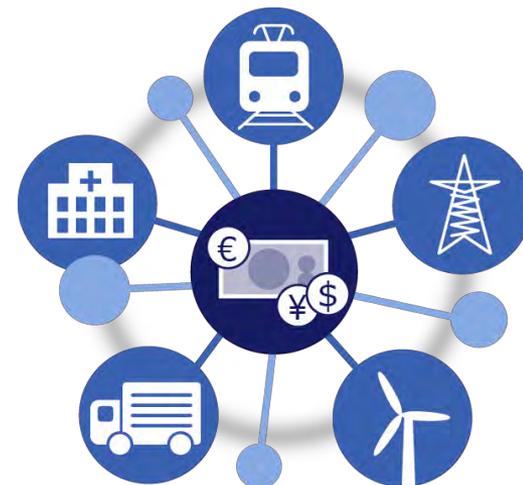
顧客協創



HITACHI
Inspire the Next



異業種連携



日立のDLT標準化に向けての取り組み

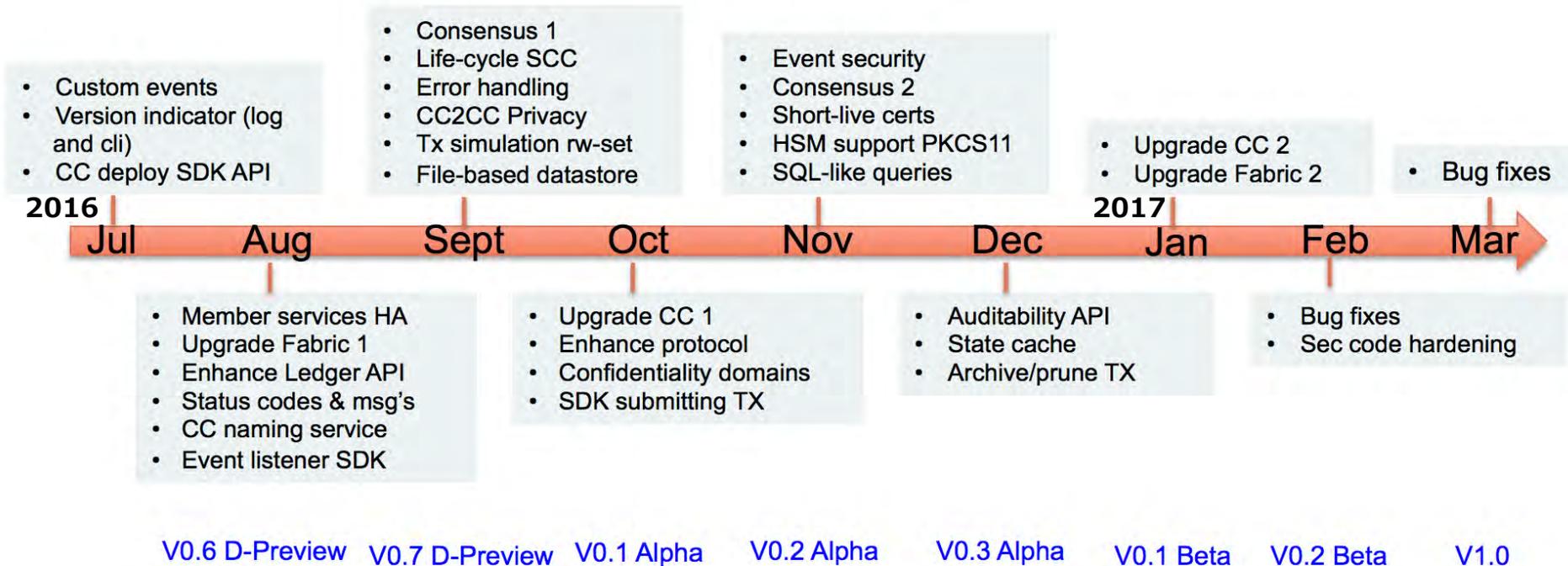
Linux Foundationが主催するHyperledger Projectでは、オープン・イノベーションによるDLT基盤開発／標準化に取り組んでいます。当社は同プロジェクトにプレミア・メンバとして参画し、DLTコア機能のオープン・イノベーションによる開発に取り組んでいます。

同プロジェクトにはAirbus、Wanda Group傘下企業が新たにプレミア・メンバとして参加していますが、これは金融業界以外でもサプライ・チェーン・マネジメント、不動産登記等の分野でDLTが期待されていることを示唆しています。



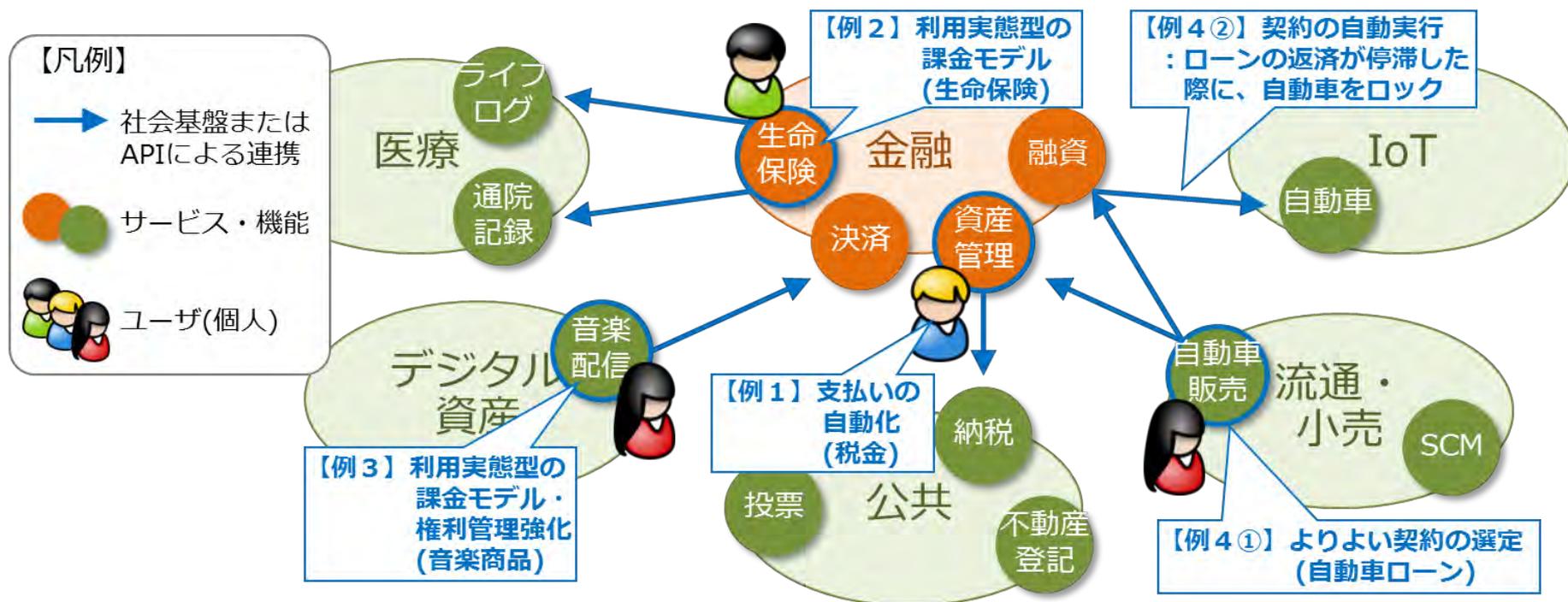
Hyperledger Projectの推進状況

現在、Hyperledger Projectでは2017年3月のVersion1.0リリースに向けて、コミュニティ開発が推進されています。

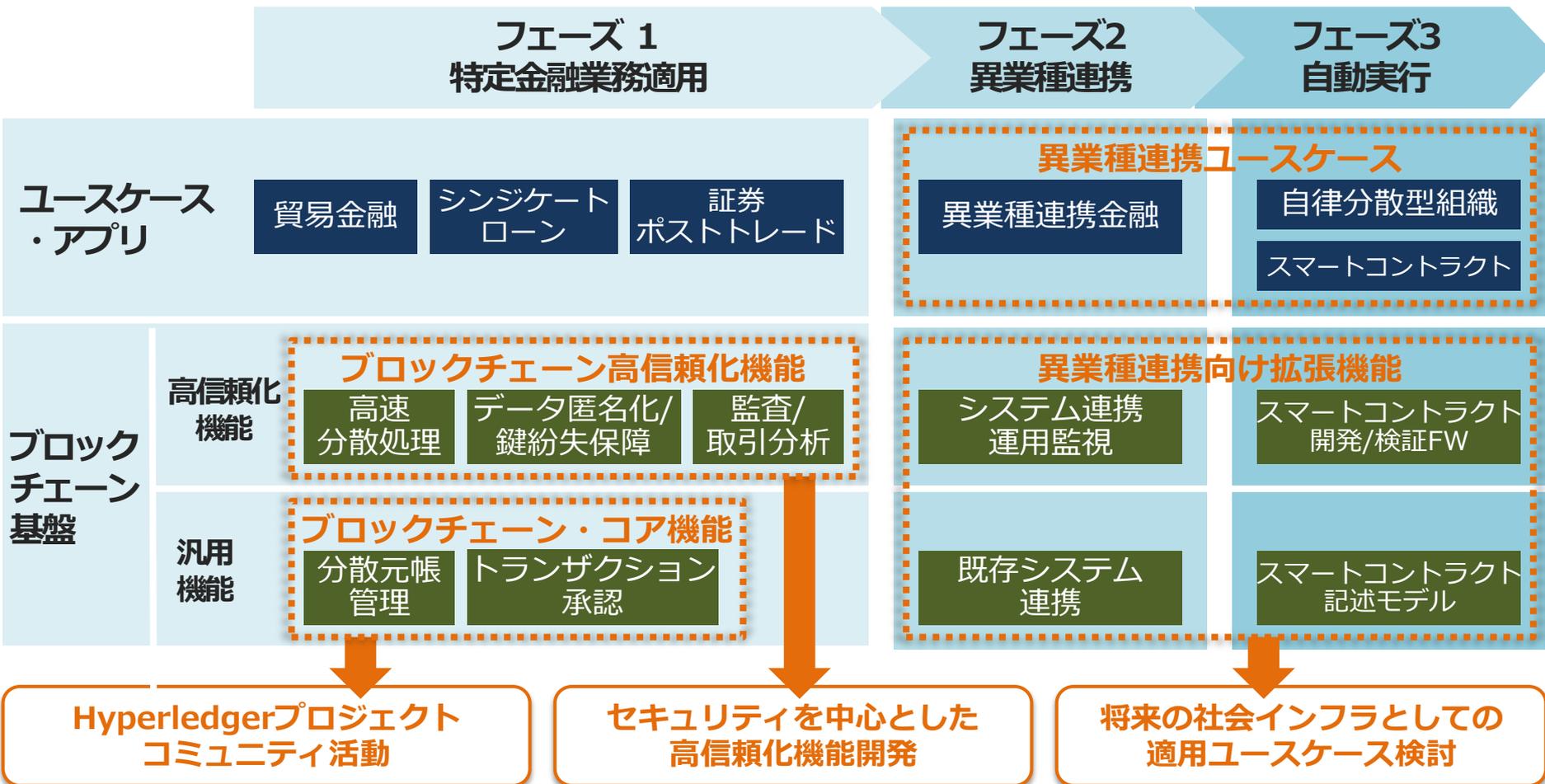


他産業のスマート化の波は、異なる業界を繋ぎ、社会課題を解決するビジネス・モデル変革を可能にすると考えられます。IoTやスマート・コントラクト等から新しい金流が生まれ、DLTを介して、金融業界に新たなビジネス機会をもたらすと期待されています。

- シェアリング・エコノミーの急速な浸透に伴う契約・支払いの自動化
- 高齢化社会の医療費削減に向けたテラード型治療・課金モデルへの変容
- 資産デジタル化がもたらす権利管理強化と課金モデルの変化
- 仲介者不在型取引の広がりに伴い、信用判断は個人に委ねられるようになり、よりよい取引相手・契約を選定することを可能とする新しい与信方式へのニーズの発生



- Hyperledger Projectにおけるブロックチェーンのコア機能のオープン・イノベーションによる開発と並行して、金融分野への適用で必須となる強化機能の開発を推進しています。
- 更に、日立の幅広い事業ドメイン知識を強みとした、業種連携サービスについて検討しています。



8/22付 ニュース・リリース：日立と三菱東京UFJ銀行がシンガポールにおいて小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術活用の実証実験を開始。

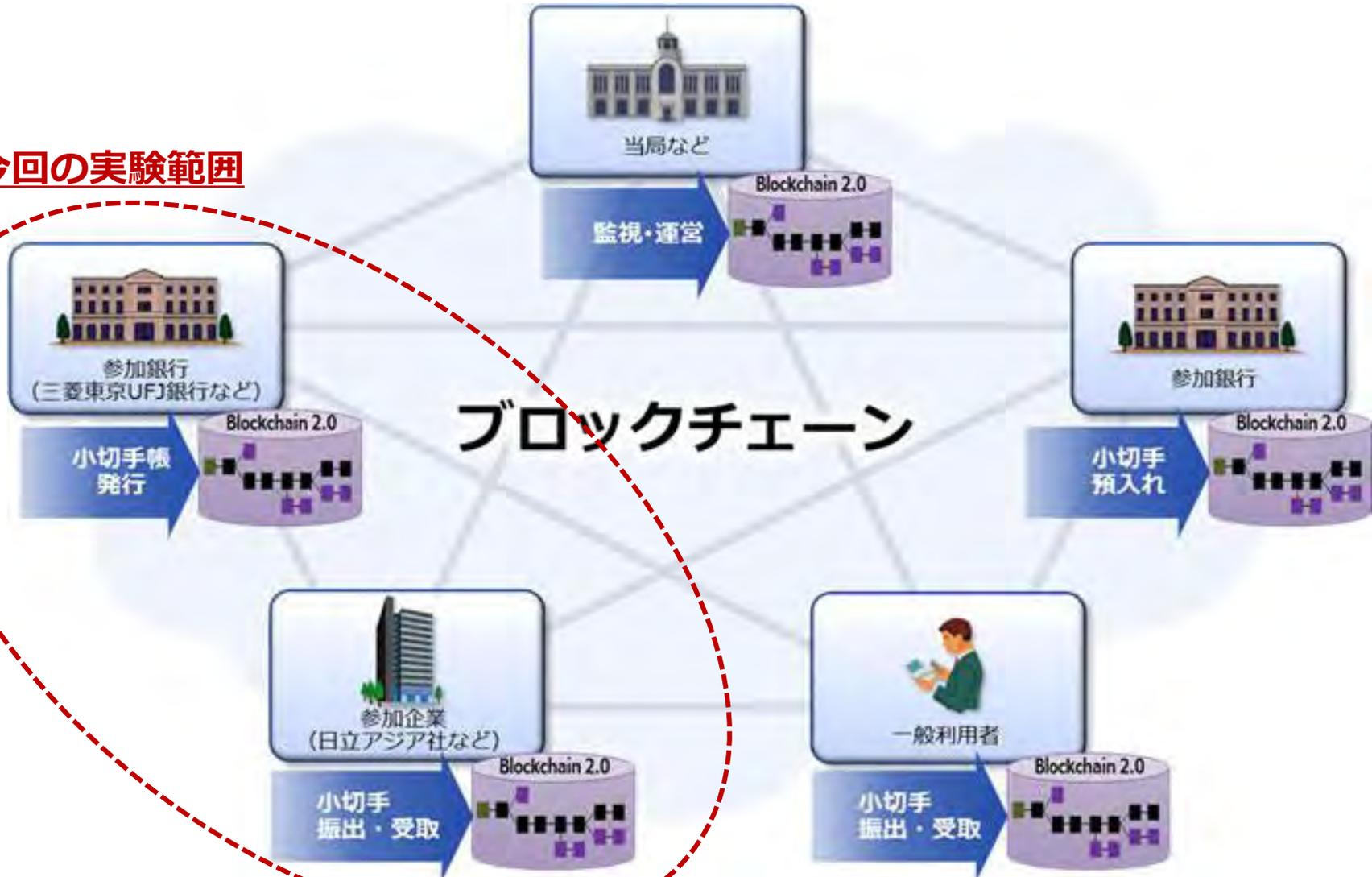
今回の実証実験について

- アジア地域における三菱東京UFJ銀行と日立の「協創」の取り組みの一つ。
- 小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術活用の実証実験を実施。
 - ブロックチェーン技術を用いて電子小切手の振り出しや譲渡、取り立てを行うシステムを共同で開発
 - 三菱東京UFJ銀行が当該小切手の発行・決済を実施
 - 日立グループの複数拠点で小切手の受け取りや取り立てを実施
- 本実証実験を通じて、技術・セキュリティ・業務・法制度などにおける課題を抽出し、小切手の電子化をはじめとするFinTechサービスの実現を目指します。

今後の展開について

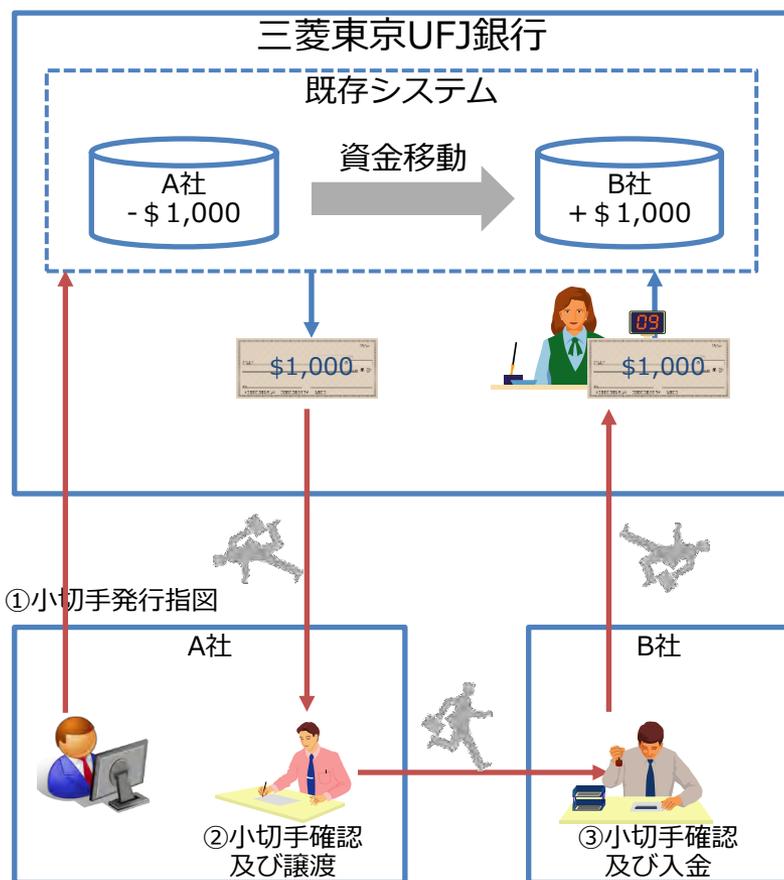
- 今回の実証実験をはじめとして、今後もブロックチェーン技術の実用化に向けた取り組みを重ね、金融サービスのグローバルな発展に貢献してまいります。
 - 電子小切手におけるブロックチェーン技術の活用を実現することで、金融機関における小切手の仲介業務の自動化、取引記録の改ざん防止、小切手決済の迅速化を推進
 - 将来には、金融以外の業界における決済やサプライチェーン・ファイナンスへの応用を想定

今回の実験範囲

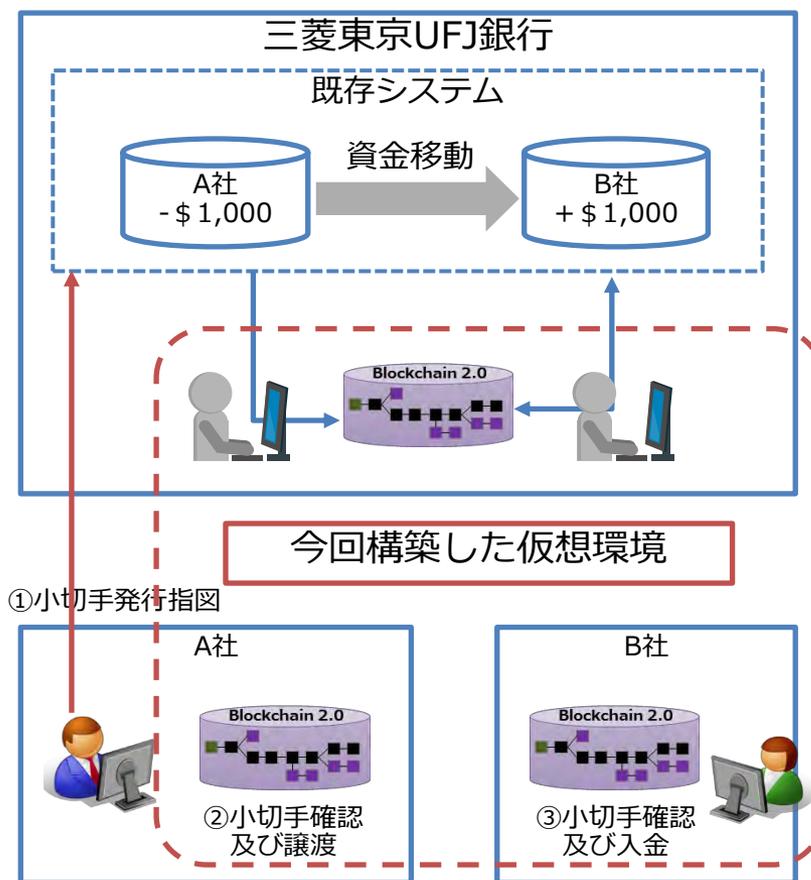


- 小切手業務における偽造や紛失の恐れを解消し、小切手の決済期間の短縮を目指し、今回の実証実験では、小切手を電子的に発行し、小切手の所有者や状態をブロックチェーンに記録しています。
- ユーザからの小切手発行依頼に対し、ブロックチェーン上に三菱東京UFJ銀行が電子小切手を振出します。ブロックチェーン上に振出された電子小切手はユーザに即時に通知され、ユーザが確認、入金依頼、分割譲渡等を行います。

現状のフロー



実証実験の基本フロー



END

オープン・イノベーションへの取り組み
～分散元帳技術の標準化と顧客協創の観点から～

2016/11/8

株式会社 日立製作所
金融イノベーション推進センター

HITACHI
Inspire the Next